

横浜市ウェブサイトは、2019年3月26日に全面的にリニューアルしました。
表示されているページは2019年3月26日時点の旧ウェブサイトのアーカイブであり、情報が古い可能性があります。
最新の情報については、新しい横浜市ウェブサイト (<https://www.city.yokohama.lg.jp/>) のトップページまたはサイトマップからお探してください。

[都市整備局](#) >> [都市デザイン室](#) >> [審議会等](#) >> [横浜市都市美対策審議会](#) >> 第1回都市美対策審議会景観審査部会

横浜市都市美対策審議会 部会

■ 第1回 横浜市都市美対策審議会景観審査部会議事録

議題	<ol style="list-style-type: none"> 「(仮称)みなとみらい21中央地区景観計画」及び「(仮称)みなとみらい21中央地区都市景観協議地区」について(審議) 関内地区における市街地環境設計制度の景観協議「(仮称)山下町計画」について(審議) 山下町県有地再開発事業について(報告)
日時	平成19年6月14日(木) 午後1時00分から3時40分まで
開催場所	社団法人横浜中法人会税経研修センター 4F中・小研修室
出席者 (敬称略)	<p>委員 岩村和夫(会長)、卯月盛夫、金子修司、高橋晶子、並木直美</p> <p>関係課 守英雄(都市整備局都市再生推進課長)、松本孝(都市整備局みなとみらい21推進課企業誘致担当課長)</p>

	関係区 小沢朗(中区区政推進課長) 書記 立花誠(都市整備局都市づくり部長)、国吉直行(都市整備局上席調査役)、秋元康幸(都市整備局都市デザイン室長)
欠席者 (敬称略)	関係区 福山一男(西区区政推進課長)
開催形態	公開(傍聴者20名)
決定事項	議題1 「(仮称)みなとみらい21中央地区景観計画」及び「(仮称)みなとみらい21中央地区都市景観協議地区」については本日の意見を踏まえ検討を進める。 議題2 関内地区における市街地環境設計制度の景観協議「(仮称)山下町計画」方針については本日の意見を踏まえた上で市の案について承認する。 議題3 山下町県有地再開発事業については意見をとりまとめ事業者へ報告する。
議事	1 「(仮称)みなとみらい21中央地区景観計画」及び「(仮称)みなとみらい21中央地区都市景観協議地区」について(審議) 「(仮称)みなとみらい21中央地区景観計画」及び「(仮称)みなとみらい21中央地区都市景観協議地区」について(審議)市から概要の説明があった。 意見

- ・みなとみらい21中央地区はスケールが大きく、歩きたい気持ちにならない。街のつくり方自体がスーパーブロック的に規模を大きくつくっていることが要因。景観形成をしていく上でどういう方向にもっといか、重層的なスケール感がつくれると良い。
- ・ヒューマンスケールに欠けるエリアだが、仕掛けをすることで解消できるのではないか。みなとみらいについてはそれ自体魅力があり、スーパーブロックはきれいですっきりしている魅力もある。行為指針2のところで屋上部分を積極的にデザインするとしている。デザインはコントロールは厳しいと思うが、頭頂部のデザインについてはコントロールお願いしたいと思っている。

(事務局)

頭頂部のデザインについてなだらかにするスカイラインの工夫はしていきたい。

- ・視点場という問題があって、どこから見たスカイラインなのかという問題がある。頭頂部のデザインだけでスカイラインは決まらないと思う。全体の高さ、見付の問題がある。そういうバランスが議論の焦点になる。
- ・この地域ならば景観的に美しい高層ビル街とすることはやる気になればできる。安易に60m以上というのではなく最高高さ、最低高さを決めて敷地規模のスタディをしてケーススタディとしたら良い。
- ・この地区は都心部では大きなコモンスペースを持っている。ここでしか植えられないようなビルの規模に負けない巨木を植樹するようなガイドラインにしてほしい。
- ・この地区は自転車で移動すると気持ちが良い。外部から来る人にとっての駐輪場は無法状態。自転車を意識した街づくりをすると来る人も増えるし、景観もよくなると思う。
- ・マンセル表は定量的なものをあらわすので建物の色を制限するにはよい事だが、素材によって見え方も異なり、不十分。素材の仕上げに関しても述べていくことが必要ではないか。ガラスのカーテンウォールが増えてきているが、反射率に基準を持たせることが必要ではないか。100%反射する施設を作るとギラギラとした建物が並んでしまう。みなとみらいは超高層の未来的な都市ではあるが、落ち着いたあるビルになった方がより個性が光ると思う。またエントランス部分に金属素材を使用して入口を豪華にグレードアップするために色々な化粧を施すことができるとは思う。金属の仕上げについても鏡面仕上げとヘアライン仕上げでは同じ材料でも感じがとても違う。みなとみらいの大きなビルで大きな面積をもつところが鏡面仕上げの金属素材を使われることを考えるとふさわしいとは思われない。もう少し範囲を広げた検討が必要だと思われる。
- ・みなとみらい全体で緑が弱い。みなとみらい全体に対する緑への考え方があった上で各事業者の間で緑化についてつながって育てているような雰囲気をつくって欲しい。緑化については少し明示していった方が良い。

(事務局)

・素材については今回のガイドラインにはまだ出ていない。みなとみらい21街づくり基本協定関係集に「ミ

ラーガラス等の鏡面的な外装材」の使い方について配慮事項はあるが、具体的ではない。解説の事例等で検討する。

- ・横浜市で既に導入しているが、CASBEEの評価のなかで光の反射というのがあって、グレアがはいっている。環境省の基準のなかで定量的に判断できるようになっている。そういうものを参考にするとよい。地区内で認証をとったところもある。それをベースにするやりかたもあると思う。
- ・ブロックの色が統一されていないなど障害者にとって使いづらいまちなになっているという指摘があった。障害者にとってのサインが景観上のそれなりの大きな要素となっている。事業者にとってそれぞれの理由でそれぞれの色、材料を選びがちである。公共スペースにおいてそうした状況があり、一般の人の目からみてバラバラである。

(関係区)

区内では自転車、歩行者のレーンを色分けするかどうか近々検討する。

2 区内地区における市街地環境設計制度の景観協議「(仮称)山下町計画」について(審議)

区内地区における市街地環境設計制度の景観協議「(仮称)山下町計画」について市から概要の説明があった。

意見

- ・都市的に重要な通りに対して、比較的コンパクトにも見えるマンションだが、特に自転車・バイク系の設置・使用のマナーを懸念する。車と自転車の出入口について配慮し、街路や歩道上空地に自転車が並ばないようにしてほしい。
- ・環境設計制度は当時あまり住宅のことは想定していないのではないかと想像する。共同住宅になると、自転車駐輪や廊下が見えるなど商業施設とは違った問題がでてくるので、共同住宅というものについて特殊な条件をつけるとかいうことをやった方がよいのではという印象を持った。
- ・植栽に関してケヤキを考えているようだが密植しすぎている。木の本数や樹種の問題について通りの街路樹との関係もあるのかもしれないが、もう少し整理してほしい。
- ・建物の色彩、モノトーンのコントラストの度合いについては、まだ具体的にはわからないが、黒い大きなボリュームというのは意外と存在感があって、北側と反対側とはかなり印象が違って見えてしまうので留意してほしい。
- ・協議・審査で見る図面としては、例えば外構図も建物全体のレイアウトがわかるものを提出するよう業者に指導をしていただきたい。また、図面表現、エレベーションなども不正確であるのが大変気になるので、参考図といえども提出について市で指導していただきたい。

(関係区)

・中区では、歴史的資産として「日本洋裁業発祥の碑」のような、まちなかで散見できる色々な碑をまちづくりの資源として大切にしようということで、絵地図も作って区民、来街者にPRしているところ。今回の計画では碑を保存して生かしていく、新しい建物の魅力としていくということが書かれている。協議方針としてもそれを一層進めていただくよう協議をしていくということでぜひ今後の模範・見本となるよう、碑があることによって良い計画・景観になるという事例を作るような協議をして欲しい。

- ・都市デザイン室で提出図面等の最低限のフォーマットを決めていただいて、必要な精度のある図面、写真、模型等を審議の場に提出して欲しい。今後の協議も短い時間の中で有効な議論ができるよう、お願いしたい。

3 山下町県有地再開発事業について(審議)

山下町県有地再開発事業について市から概要の説明があった。

意見

- ・実施設計段階まで進んでおり、景観制度ができる前からの案件なのでこの場での「審議」というのはなじまないのではないか。
- ・今後の景観ガイドライン運営のこともあるので、今回の物件は1つのシミュレーションとして扱い、その中で今からでも反映できることがあれば反映するというところでどうか。

(事務局)

・経緯としては都市計画審議会のほうで都市美審の意見を聞くべきという意見が出たため、「審議」という形であげたが、実質的に審議というのなじみにくいので、今回は「報告」に変更させてもらい意見を伺いたい。

- ・最初に市がまちづくりの方針をきちんと定めて、事業コンペなり指名コンペを行って提案されたものを中心に地区計画を定めて担保しようというやり方については評価している。しかしできた地区計画を見ると、まちづくり方針よりは、かなりゆるやかにできている。事業者が決まってから、すべて当初の方針どおりにならないことはわかるが、まちづくり方針として最初に示した設計方針から、後退している印象がある。模型を見ると例えば、旧露亜銀行は結婚式場として生かされているけれど、あまりに隣の建物のボリュームが大きいので、セットバックを明確にやって旧露亜銀行をそれなりに位置づけることもできるのではないかと。海へのビスタをとるために建物がきちっと向こうの山下公園側の道路に合わせて建物の壁面をつくりなさい、とまちづくり方針にあった。ところが角のところに出てくる円形状のものが若干遮っている、というような印象もある。それからもう一つは、3つの建物を1人の民間の都市デザイナーが調整する

という新しいプログラムが入っていたと思うが、そうした形跡が見られない。それは例えば先ほどの低層・中層・高層というゾーニング、特に低層は旧露亜銀行の15mという高さで、その雰囲気が連なっていくというイメージがまちづくり方針にあったと解釈しているが、今ここからは全然感じられない。

- ・ 今の露亜ビルとの関係で言うと、隣がNHKなのだからポケットパーク・広場に関しては、カフェだけでなく気持ちよく集える場があつていいのではないかと思う。それから露亜ビルとの関係性があつてもよい。露亜ビルというのは大事なビルだと思うが、ここを歩く人から見て生かされていない、ガラスで連続するというのはあまりにも安易。他にグレアの問題とか光の反射の問題もあり、そのあたりが、ガラスにするという選択がいいのかという話になる。3層構成にするときにどれかがガラスにならざるを得ないというのはわかる。地面を歩いたときに本当に気持ちいいのかという疑問や植栽の問題とかありばらばら。3つの土地をせっかく一緒に再開発したという割には、そのメリットが生かされていないという印象。それから、(アンテナの)タワーは難しい問題で今後詰めていかなければならないだろうが、NHKが入るということであれば当然そういうものが必要になる、それについては今後努力されていくのだろうと思うが、それよりはむしろ全体としての構成の中できちっとした意見を求めて、できたものはみんな生かしてもらいたいと思う。
- ・ 一面が夜は絶対に歩きたくないつくりになっている。賑わい、安全性をもう少し考えてほしい。

議事まとめ

議題1

- ・ スカイラインの考え方、頭頂部のデザインの考え方、コモンスペースのあり方、緑化の全体の考え方、ユニバーサルデザインの考え方、色彩、マンセル値以外の素材やグレアの面でも考慮にいれて欲しいとの意見があつた。市内部でこれらのことについて検討する。

議題2

- ・ 車と自転車の出入り口について安全性への配慮や違法駐輪対策も含めて事業者申し伝える。
- ・ 並木について植栽のケヤキが計画上多い。方針の中で植樹については適切に選定していくと協議方針に書き加える。
- ・ 色彩について黒のような強すぎる存在感がでないよう協議方針に書き加える。
- ・ 横浜市として環境設計制度の審議にかかる書類について、審議のしやすさを加味しながら整理し、事業者指示する。

議題3

	<ul style="list-style-type: none"> 既に実施計画段階まで進んでいる開発のため、都市美審として責任ある議論ができないということなので、今回は審議事項から報告事項に変えていただき、その上でいただいた意見をまとめて事業者へ報告する。
資料	<ul style="list-style-type: none"> 1 第1回横浜市都市美対策審議会景観審査部会資料(A4・一部A3、89 ページ)(PDF,8.5MB)
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事録については、会長が確認する。 次回の開催日時は未定

[都市整備局](#) >> [都市デザイン室](#) >> [審議会等](#) >> [横浜市都市美対策審議会](#) >> 第1回都市美対策審議会景観審査部会

都市整備局企画部都市デザイン室

ご意見・お問合せ - tb-toshidesign@city.yokohama.jp - 電話: 045-671-2023 - FAX: 045-664-4539

- 2007年 10月 03日 作成 - 2010年 06月 18日 更新

©2010-2010 City of Yokohama. All rights reserved.